

## 第 32 回(令和 2 年度 第 3 回)黒部市公共交通戦略推進協議会 会議録

## 開催概要

- 日 時 令和 3 年 2 月 9 日 (火) 14:00～
- 場 所 黒部市役所 202, 203 会議室
- 出席者 協議会委員 19 名

## 出席者名簿

区分	所属	役職	氏名	出欠等	備考	
第 6 条 第 2 項 第 1 号	地域公共交通網形成 計画を作成しようと する市町村	黒部市長	大野 久芳	本人出席	会長	
第 6 条 第 2 項 第 2 号	関係する公共交通 事業者等	富山地方鉄道株式会社専務取締役	中田 邦彦	本人出席		
		黒部市タクシー協会会長	神谷 尚機	本人出席		
		あいの風とやま鉄道株式会社総務企画部長	籠浦 克幸	本人出席		
	関係する道路管理者	富山県新川土木センター入善土木事務所長	濱瀬 浩晃	所長代理 高嶋 茂晴		
第 6 条 第 2 項 第 3 号	関係する公安委員会	黒部警察署長	高尾 且英	本人出席		
		黒部市自治振興会連絡協議会	谷島 傳俊	本人出席	副会長	
	地域公共交通 の利用者 市民ボランティア	黒部市民生委員児童委員協議会長	田村 豊嗣	本人出席		
		特定非営利活動法人黒部まちづくり協議会 ワンコインプロジェクトリーダー	菅野 寛二	本人出席		
		黒部市老人クラブ連合会長	村上 勝悦	本人出席		
		くろべ女性団体連絡協議会長	新村 恵子	本人出席		
		公募委員	中谷 靖子	本人出席		
	政策支援 アドバイザー	中央大学理工学部都市環境学科教授	原田 昇	欠席		
	その他の当該市町村 が必要と認める者	北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長	佐々木凜太郎	欠席		
		北陸信越運輸局鉄道部計画課長	織田 幸浩	欠席		
		北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官	鴻島 純	本人出席		
		富山県観光・交通振興局 次長兼総合交通政策室長	田中 達也	主 幹 若林 修		
		黒部商工会議所会頭	川端 康夫	本人出席	座長	
一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局代表理 事		川端 康夫	事務局長 坂井 英次			
Y K K 株式会社 副社長 黒部事業所長		浅野 慎一	本人出席			
富山県交通運輸産業労働組合協議会議長		石橋 剛	事務局長 石田 康博			
宇奈月商工振興会	羽柴 進一	本人出席				

■事務局：黒部市都市建設部都市計画課：島津部長、畠山理事、廣木課長、輿水主幹、櫻田班長補佐、  
林主事

(株)新日本コンサルタント：大門、植原

**会議次第**

- 1 開 会
- 2 あいさつ（会長 大野黒部市長）
- 3 報告事項
  - (1) 経過報告 . . . . . 資料 1
  - (2) 令和 2 年度路線バス動態調査について . . . . . 資料 2
- 4 協議事項
  - (1) 道の駅KOKOくろべに向かう路線バスの運行ルート（素案）について . . . 資料 3
- 5 その他
- 6 閉 会

**開会**

- 定刻通り開会し、委員の変更について、事務局が紹介を行った。
- 進行：廣木課長

**あいさつ（大野市長）**

- 会長よりあいさつを行った。

本日第 32 回黒部市公共交通戦略推進協議会を開催したところ、皆様におかれては、万難を排してご出席いただき、感謝している。また、日頃より本市の公共交通の整備と運営にご理解・ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、去年は新型コロナウイルスの感染拡大により、我々の日常生活や経済活動に甚大な影響を及ぼした。年が明けても収まる気配は無く、首都圏を中心に再び緊急事態宣言が発出されている。富山県内においても、年末から年明けにかけて感染者数が増加し、再び予断の許さぬ状況となっている。また、1月7日（木）から11日（月）にかけて過去に観測されたことのない集中的な暴風雪により、我々の生活、特に交通面、物流面で甚大な影響が出た。県内では、東海北陸自動車道で約 200 台が立往生したほか、公共交通機関においては、鉄道やバス等の大半が運休した。市内においても、路線バス及びコミュニティー交通は、1月15日（金）の全路線での運転再開まで、約 1 週間を要した。

新年早々、新型コロナウイルスのほか、記録的な大雪と公共交通機関を取り巻く状況は非常に厳しいが、市民の足を守る各運行事業者様の並々ならぬご尽力に対し、敬意を表するとともに深く感謝申し上げます。

さて本日は、報告事項が 2 件、協議事項が 1 件となっている。報告事項については、「経過報告」のほか、今年度実施した「路線バス動態調査」について説明する。協議事項については、前回の協議会で基本的な考え方を確認した「道の駅KOKOくろべに向かう路線バスの運行ルート（素案）」について、皆様の忌憚のないご意見を賜りたい。

**報告事項**

## (1) 経過報告

## (2) 令和 2 年度路線バス動態調査について

- 事務局より、資料 1・2 に基づき、経過報告及び「令和 2 年度路線バス動態調査」に関する報告を行った。

## ○浅野委員

路線バス動態調査は、いつ実施したのか。

## ○事務局

路線バス動態調査は、令和 2 年 11 月 12 日（木）に実施した。

## ○浅野委員

当日の利用者数は、コロナ禍の影響から非常に少ないため、調査結果をどう判断してよいかのわからないという印象である。いずれにしても利用者数が少なすぎるため、運行ルートの見直しも重要であるが、まずは、いかに利用してもらえるようにするかということを考えていく必要がある。特に南北循環線は、人口集積地や主要な目的地を經由しているにも関わらず利用されていないことへの対応策を打ち出す必要がある。

## ○事務局

今回実施した動態調査を踏まえ、委員の発言のような利用促進策を打ち出す必要があると考えている。利用促進策の実施に際しては、沿線の住民や商店、事業者等へのアプローチが必要と考えており、運行事業者と相談しながら、さらに利用してもらうための工夫を施していきたい。具体的には、くろワンきっぷ等で実施されているような切符を見せると割引される工夫など、ソフト的なアプローチの仕方も一案であると考えている。

## ○浅野委員

バス路線の問題点への対応策を講じるに当たっては、実施時期や利用者等の目標を定める必要がある。また、住民等への利用促進策とともに、バス路線の利用しやすさを高める観点から、フリー乗降等による公共交通を利用するメリットをアピールしないと、なかなか利用者数を増加させることは難しいのではないかと。なお、埼玉県では、路線バスの運転手が車内から歩行者等に対し声掛けによる呼び込みを行っている事例もある。強く自動車利用に依存している県民性を踏まえ、公共交通利用者の利便性をアピールするための種を出してもらえないか。

また、専門家にお聞きしたいが、フリー乗降を実施するのは難しいことであろうか。

## ○鴻島委員

警察による安全性が確認できれば、フリー乗降は可能であろう。

## ○浅野委員

利用者の増加に向け、公共交通を利用する魅力を創出するための取組についての種出しが必要であろう。極論であるが、利用料金について、一律 100 円とすることや 65 歳以上は一律無料にすることなどが考えられる。これらの取組については、実証実験等により効果を確認しながら実行に移していくことが必要ではないか。

## ○事務局

バス路線の見直しに際しては、料金のバリアフリー化も視野に入れながら検討していきたい。

## ○川端座長

料金の統一化については作業部会でも議題に挙がっており、現行の料金体系を工夫すべきとの意見であった。路線バス動態調査については、来年度以降も継続的に実施することとしているため、来年度以降も本協議会で調査結果を報告させていただきたい。

**協議事項****(1) 「道の駅KOKOくろべに向かう路線バスの運行ルート(素案)」について**

- 事務局より、資料 3 に基づき「道の駅KOKOくろべに向かう路線バスの運行ルート(素案)」に関する説明を行った。

## ○事務局

本協議事項に関する原田委員の意見を紹介する。運行ルートの代替案として、生地方面から生地中区藤が丘クリニック前バス停を経由し、直接、道の駅KOKOくろべにアクセスするルートが考えられるが、沿線及び中心市街地からの買い物需要が見込めることから、現行のルートを活かしたルートとすることは理解できる、とのことであった。

## ○川端座長

今回は、生地循環線の道の駅KOKO黒部への乗り入れについて議論いただいているが、需要によっては、南北循環線の乗り入れも考えられるのだろう。

## ○事務局

南北循環線の道の駅KOKO黒部への乗り入れについては、今後、運行事業者である富山地方鉄道と桜井交通と協議しながら路線の見直しを行っていきたい。

## ○菅野委員

新幹線市街地線については、当初は電車の代替手段と捉えていたが、実際は電車の方が便利であるため、利用を促進するためには、もう少し魅力を付加する必要があるだろう。あいの風とやま鉄道と黒部宇奈月温泉駅とのアクセスを考えると、魚津市民の多くはあいの風とやま鉄道を利用しないだろうが、入善町民や朝日町民の多くはあいの風とやま鉄道を利用するだ

ろう。それぞれのバス路線に対しては様々な施策を実施しているが、成果が挙がらない場合は、どこかの時期で廃止する判断あるいは乗りやすい工夫を実施する必要があるのではないかと。議題の生地循環線の道の駅KOKO黒部への乗り入れについても同様であり、期間を定めて利用者数等の目標を設定しながら実施する必要があるだろう。

一方、アンケート調査については、回収率が低すぎると思う。

また、本協議会は、活発な意見が交わせるよう、楽しい会合にすべきであろう。

#### ○川端座長

作業部会でも議論があったが、新幹線市街地線については、当初より利用目的が変化しているものと考えられる。

#### ○浅野委員

黒部宇奈月温泉駅と接続する新幹線生地線についても、日中の利用者数が著しく少ない状況である。当初は黒部宇奈月温泉駅とのアクセスを目的としていたが、現状の生活路線としての利用実態を踏まえ、ダイヤの見直しが必要であると考えている。

路線バスの運転手が車内から歩行者等に対し声掛けによる呼び込みを実施する際に必要となる設備や関係法令について、情報提供をお願いしたい。併せて、情報提供時期についても早めにご教示いただきたい。

#### ○事務局

路線バスの見直しについては、第 2 次地域公共交通網形成計画期間の 5 年間の中で何らかの決着をつける必要があると認識しており、その実現に向け、個々に打合せさせていただきたい。

フリー乗降の実施に際しては、道路の幅員の問題を解決するとともに公安との協議も必要となるであろう。

これらについては、そのほか利用者数を増やす方策として、通勤と昼間別に速度便や停車タイプの設定や相互乗入など、ワーキングで種出しを行いながら進めていきたいと考えている。

#### ○川端座長

路線バスの見直しについては、作業部会でも議題に挙げながら取り組んでいきたい。

#### ○高尾委員

フリー乗降のように様々な場所でバスに乗降できることは利用者にとって良いことであるが、道路交通法上の問題も生じる恐れがあるので、個別に相談してほしい。

#### ○谷島副会長

池尻線の東布施口から田畑の区間は、原則として自由乗降できる。自由乗降ができるようになってからしばらく経つと、自然に乗降場所が固定されてくるようである。利用促進を図るために、浅野委員の発言にあるような声かけスピーカー等を設置できないか。池尻線では、

人口が減少する中で利用者数が増加しているのので、やり方と考え次第で利用者数の増加を図ることは可能であろう。

生地循環線の道の駅KOKO黒部への乗り入れについては、ダイヤを設定し想定される人の流れをリサーチしながら検討していくべきであろう。また、路線バス動態調査については、利用者がアンケート調査に協力いただいていることもあるので、調査に協力した利用者は無料にするなどの工夫も必要ではないか。また、公共交通に対し多額の予算を投入していることから、事務局のみならず地域とともに利用促進のためのアイデアを出しながら進めていく必要がある。

#### ○籠浦委員

今回の生地循環線の道の駅KOKO黒部への乗り入れ案については、賛成である。乗り入れ案の運行ルートは、黒部駅とアクセスする場所が増加することになるので、運行事業者としてありがたい。どの程度の需要が見込めるかは不明であるが、様々な選択肢が増えることについてありがたいと感じている。

公共交通機関の総論の話となるが、各交通事業者ともにコロナに対するしっかりとした予防対策を実施しているので、公共交通は安全で使いやすい交通手段であることの理解が進めば、公共交通機関全体の活性化や維持につながるものと考ええる。

また、鉄道と路線バスとの接続については、乗り継ぎ情報を提供するためのツールがあればよいのではないかと。

#### ○中田委員

生地循環線については、利用者数から考えるとバス路線とは言えない状況である。一般的に、施設等の需要の概ね 5 から 10%が公共交通、概ね 2 から 3%がコミュニティバスの利用者数と考えられるため、新幹線需要や道の駅需要の取り込みについては、新幹線や道の駅の利用者数と路線バスの利用者数とを対比してみることも重要であろう。

なお、令和 2 年度の公共交通の利用者数については、4 月及び 5 月は前年同時期に比べ概ね 7 から 8 割減、4 月からの累計でも概ね 6 から 7 割減と、過年度に比べ著しく少ない利用者数となっている。このため、今年度の実績を基に評価することは問題であろう。

自由乗降バスについては、昭和 50 年代中頃の利用者数の減少対策として各地で実施されたが、実際には利用者の増加は期待できない。一方で、利用者によっては、交差点の真ん中に停車するよう依頼するケースなどのトラブルも発生している。また、利用促進には自由乗降区間の周知も課題となる。

#### ○川端座長

他に意見がないのであれば、概ね原案の考え方で進めさせていただきたい。また、本件については、運行ルートの詳細や乗り入れ時期が確定したところで、改めて本協議会にお諮りしたい。

## その他

- 事務局より、公共交通紹介番組（みらーれTV）の紹介を行った。

### ○川端座長

今回のテレビ番組のように、多くの方に市内の公共交通を見ていただくことは重要であろう。

### ○中谷委員

久しぶりに協議会に出席させていただいたが、高齢である私の生活とはかけ離れた議論が行われているように感じた。私は病気のため、ホームヘルパーに来てもらえる日以外は、買い物等の外出手段としてタクシーをよく使う。しかし、資金的な問題から、もう少しタクシー料金を安くしてもらえないかを感じている。病気を持つ高齢者としては、食べるのが唯一の楽しみであるが、それもままならない状況である。

久しぶりに協議会に出席させていただき、当初からの黒部市の変わりように驚いた。

委員には、私のような人が市内にいるということを知っていただけるとありがたい。

### ○川端座長

中谷委員は、今回で退任されることでよろしいか。

### ○中谷委員

そのとおりであり、関係者の方々のご厚意に感謝している。

### ○浅野委員

中谷委員には、今後も頑張っていたきたい。

(全員で拍手)

## 閉会（谷島副会長）

- 副会長よりあいさつを行った。

本日は、長時間にわたりご協議いただきありがたく思う。また、川端座長には、円滑な議事運営をいただき、感謝申し上げます。

本日は、「道の駅KOKOくろべに向かう路線バスの運行ルート（素案）」について、ご審議いただいた。

現在は、新型コロナウイルス感染症が再度拡大し、さらには例年にない大雪という、公共交通にとっては非常に厳しい状況となっている。運行事業者の皆様において、衛生面では新型コロナウイルス対策、運行面では積雪時の運転と、利用者の安全に留意いただくようお願い申し上げます。

本日は、誠にありがたく思う。

以 上